



—カメラアは、ツバキ科の植物の総称です。呉市民の花はつばきであり、本校校歌の歌詞にも含まれています。—

「授業中、よくしゃべり、とにかく騒がしい」「多動があり、落ち着きがない」「ノートも書かず、別のことをしているか伏せていることが多い」—学級内にADHDやその周辺の子もたちが複数いる場合、教師の思うように授業が進められないことがあります。子どもの行動を変えようとするばかりではなく、その特性を活かした授業展開の工夫をしていく必要があるのかもしれない。

その行動には意味がある!

○ ADHDとその周辺の子もたちの様子

多動性…そわそわ・もじもじ、離席、姿勢が悪い、走り回る、静かに活動できない、じっとできない、多弁など

衝動性…話を最後まで聞かない、順番を待つことができない、邪魔をするなど

不注意…注意の持続困難、話を聞かない、課題を最後までやり遂げられない、順序立てた活動が苦手、物をなくす、気が散りやすい

また怒られた!
…ってうか、いつも
僕ばっかり怒られる!!

そもそも、興味がない
ものはやりたくない!



後先考えないからよく失敗する…
でも悪気はない。失敗しても立ち直りが
早くてよく言われる!
これって長所だよな?

面倒くさがりで、目立ちたがり!
すぐ調子にのる!
我慢ができなくて、そもそも待てない!

松久眞実(2012年)は、著書の中で“やってはいけない!わかりにくい、伝わりにくい話し方”(以下、「やってはいけない話し方」とする。)について、示しています。

「やってはいけない話し方」
言葉が長い
余分な発音が多い
知らぬ間に繰り返してしまう「口癖」
語尾が明確でない
視覚的な刺激が多い
聴覚的な刺激が多い
話すスピードが速すぎるか、一本調子
間がない
抽象的な言葉づかい



こうなる前に…
「やってはいけない話し方」をしていないか
振り返ってみませんか?

また、川上康則(2018年)は、指導者のタイプと児童生徒の反応について、次のように示しています。

指導者のタイプ	児童生徒の反応
威圧的・高圧的に対応する	指導者の前ではおとなしい。指導者がいるだけで落ち着かない。
機械的に対応する	指導者からほめられた実感がないので行動修正しにくい。
動揺が表情に出る	指導者をからかうようになる。
要求どおりに対応しすぎる	行動がエスカレートする。
ぶれず、動じず、持ち味を引き出す	落ち着いて行動できるようになる。問題行動が減る。

勝負は“巻き込むか”
“巻き込まれるか”



- ・感情的に怒ると、なめられる。
- ・挑発に乗らず、おろおろせず毅然と。
- ・泣き叫び暴力や暴言が出るなど、パニック中は、刺激せずにそっとしておくこと。(低い静かな声で、しゃべる。場合によっては、パニックを起こす原因となった人や物をその場から離すことも必要です。)
- ・他害行為等がある場合は、他の子どもを避難させる。(本人が移動できるようであれば、落ち着ける場所に移動させる。)
- ・パニックが治まってから、行動を振り返る。※できたことや我慢できたこと認め、褒める。

子どもの変えたい行動があるとき、なぜそのような行動をとるのかを分析し「おもしろそう!」「やってみたい!」「できそう!」と思える仕掛け(授業展開の工夫)が大切です。

単元(題材)目標や本時のめあては何ですか?その単元(題材)やその時間に何をしたらよいか、子どもに分かりやすく示されていますか?…ノートに書き写すことができても、内容を理解できていなかったり、ノートを見返す習慣が身に付いていなかったりしていませんか?

参考 川上康則(2018年):『特別支援教育の視点から子どもの理解を深める～気になる子ども輝く学級経営の極意～』日本授業UD学会中国支部第72回子どもの学びを創る会



ADHDやその周辺の子どもたちについて、知る手掛かりはここにもあります。

- 発達障害の子どもを二次障害から守る! あったか絆づくり—問題行動を防ぐ! ほめ方・しかり方、かかわり方/岩佐嘉彦・松久眞実(2012年)
- ~ADHD~おっちょこちょいのハリー/成沢真介(2020年)
- ボクはじっとできない 自分で解決法をみつけたADHDの男の子のはなし /バーバラ・エシャム、品川裕香(訳)
- いぬはみんなADHD/キャシー・フープマン、牧野恵(訳)(2018年)



広島県立呉特別支援学校



担当者:専任教育相談主任(特別支援教育コーディネーター) 平川 真衣

住所:呉市焼山北三丁目 22-1

TEL:(0823) 33-0300 FAX:(0823) 33-0308